

1 1 都市近郊に於ける森林・林業に対する市民の声

仙台営林署 柏崎 清文

はじめに

現在、林業を取り巻く諸情勢は改めて言うまでもないが大変厳しいものがあり、そうした中で事業運営をしている国有林野事業も極めて厳しい状況下にある。

近年、国民の森林に対するニーズは多様化しており従来の「木材生産」「水資源の涵養」等に加えて、森林空間を利用したレクリエーションの場としての活用を求めたり、また「森林は手を加えるべきではない」「生態系を壊すような伐採は慎むべき」と言った自然保護を主眼とした声も聞かれ、これらの国民の意見を国有林野事業の中にどう反映させていくかが今後の重要な課題と考えられる。

今回、私はこの課題について「アンケート」の形で調査を実施し、これらの結果を今後の事業運営に反映させて貰いたいと考え取り組んでみたので、その結果と今後の課題について発表する。

1, 調査時期 平成5年10月10日 - 平成5年11月3日

2, 調査場所

- 勾当台公園 (木になるフェアー来場者)
- 台原森林公園 (一般来場者)
- 七北田公園 (一般来場者)
- その他 (地下鉄駅外)

3, アンケート調査項目

- 1) 営林署, 国有林等の知名度
- 2) 森林に対する関心度
- 3) 自然保護に対する市民の考え
- 4) 今後の森林の在り方, 利用方法
- 5) 国有林野事業に対する要望

以上の5項目をベースにして、仙台市内においてリサーチした。

4, 調査結果と一考察

(1) 営林署, 国有林等の知名度について

ア, 「仙台市に国有林を管理経営している営林署があることを知っていますか」

の問いに対し「知っている」と答えた人は全体の73%を占めた。(図-1)
イ、予想以上に「知っている」と答えた人が多かったが、年代別では、どのようなバラツキになっているのか考察した。(表-1)

◎年代別に見ると「知っている」と答えた人の割合は、30歳未満では54%
30歳代では62% 40歳代以上では70%以上となっており、年代が高くなるにつれて「知っている」と答えた人の割合は高くなっている。当署の場合、幸い予想以上に知名度が高い結果となっているが、年代別結果を見ると若い年代程ポイントが低くなっており、この結果から見る限りにおいては「国有林のPR」を若年層にもマッチさせる方法が必要であることが伺える。

(2) 森林に対する関心度について

ア、「あなたは森林に対して興味がありますか」の問いに対し、「ある」と答えた人は全体の90%「ない」と答えた人が7% 無回答が3%といった結果になった。(図-2)

イ、また「ある」と答えた人に対し「どのような事に興味がありますか」の問いに対して「景観について」が51%「動植物について」が35%「レクリエーション施設について」が11%「その他」が3%といった回答となっている。

(図-3)

◎このことから、全般的にほとんどの人が「森林に対して関心がある」ことが分かり、関心を示す視点においては個人によって幾分かの差がありニーズの多様化が伺い知れる。

(3) 自然保護に対する市民の考えについて

ア、「あなたは自然保護に興味がありますか」の問いに対し、「ある」と答えた人は全体の94%「ない」と答えた人が5% 無回答が1%といった結果となった。(図-4)

イ、これについても年代別によって、バラツキがあるものと考えて割合を算出して見た。(表-2)

◎この結果から、若年層において多少ポイントの低さが見られるが30歳代以上ではほぼ100%に近い人が何らかの興味を示していることが分かった。

ウ、さらに、「興味がある」と答えた人に対し「どのような事に興味ありますか」の問いに対して「森林の伐採を行わないこと」と答えた人が42%「動植物を守ること」と答えた人が53% その他の回答が5%となっている。(図-5)

◎この結果をみると、「森林の伐採」についてよりも「動植物を守る」ことの方

が若干ではあるがポイントが高くなっており、以前に見られた「伐採反対」一色だった考えから一步前進しているものと推察される。また少数意見としては「山や道路にゴミを捨てない」「リサイクル運動について」「林道の通行を制限しこれ以上自然に手を加えるべきではない」等多様の意見があった。

(4) 今後の森林の在り方、利用方法等について

ア、今後の森林の在り方について「仙台市近郊における森林の活用について、あなたならどうしますか」の問いに対し「森林として維持する」と答えた人が全体の91%を占め、「森林以外の施設敷として利用する」と答えた人は9%となっている。(図-6)

イ、次に森林の整備について「森林の機能を高める為には整備することが必要であるが、あなたはその経費の負担に協力を惜しみませんか」の問いに対し「はい」と答えた人は全体の86%、「いいえ」と答えた人は14%の結果となっている。(図-7)

◎これらのことから、森林に対しては整備する程度で、できるだけ自然の形で残して貰いたいと言うのが市民の声のようである。また「森林整備の経費負担を惜しまない」と答えた人が90%近いポイントを占めたことは、応分の負担をしても「森林を守りたい・大切にしたい」と言う声を今後の参考としなければと考える。

ウ、また木材を供給するといった観点から「森林の伐採についてどう思いますか」の問いに対し「適正に行われるなら伐採してもよい」と答えた人は全体の60%、「あまり感心しない」が16%、「伐採すべきでない」が24%といった結果となり、森林の伐採に対して否定的な考えの人が全体の40%を占めることが分かった。(図-8) このことは、今後の国有林野事業を運営していくうえでネックとなる課題であり、国民に広く理解して貰うべくPR活動に努めていくことの重要なことが分かった。

エ、さらに「森林以外の施設として利用するとすれば、何が良いと思いますか」の問いに対し「レクリエーションの場」と答えた人が全体の57%、「公共施設敷」が38%、「その他」が5%といった結果になった。(図-9)

(5) 国有林野事業に対する要望について

ア、最後の項目として「国有林野事業について意見を聞かせて下さい」という問いに対し回答した人が全体の10%弱に止まり残念な結果となった。しかし、回答した人の意見・要望等は大変参考になるものが多かったので次に紹介する。

- ① 国有林野事業はPR不足だ。
- ② 森林の伐採は慎むべき。

- ③ 特会制度を止めて一般会計制度にしたらどうか。
 - ④ 営林署の業務内容を一般市民に公開して貰いたい。
- ◎これらの意見・要望は、普段の業務の中ではなかなか耳にすることなく、ややもすると日常業務に追われて忘れがちになっていることが多いのではないかと。私自身大いに反省すべきで非常に参考となった。

まとめ

以上の5項目についてまとめると、まず1点は何といっても国有林野事業のPR活動にあると考える。それには全職員が所属する営林署等を知って貰うことが先決であり、今までの考えを一新して様々な形でPR活動を展開すべきではないだろうか。

次に、地域（国民）の意見を広く取り入れながら国有林野事業の運営に心掛けるべきではないだろうか。今回実施したアンケート調査において、私が実感したことはこのような小規模で行ったことでも周囲の反響は意外に大きく、また地域の人々の素直な意見も多く聞くことが出来、大変参考になった。是非、この意見・要望等について少しでも事業運営に反映したいと考える。

おわりに

今回実施したアンケート調査は、当初1,000人を目標に取り組んだが944人と若干下回った。しかし、各項目毎の調査結果は非常に参考とすべきことが多く見いだされ大筋では「成功」したものと自負している。

今後においても、今回のアンケート調査をもとに「森林・林業・国有林のPR活動と国有林野事業運営に対する意見・要望等の収拾に努力する」ことを明らかにして発表を終わります。

(表-1) 「営林署を知っている」と回答した年代別内訳表
(単位：%)

項目	年代	— 30未	30— 40未	40— 50未	50— 60未	60— 70未	70才 以上
知っている		54	62	78	76	94	80
知らない		45	38	22	24	6	20

(表-2) 「自然保護に興味がある」と回答した年代別内訳表
(単位：%)

項目	年代	— 30未	30— 40未	40— 50未	50— 60未	60— 70未	70才 以上
あ る		75	94	100	97	98	100
な い		25	6	0	3	2	0

図-1 仙台市に「営林署がある」ことを知っていますか

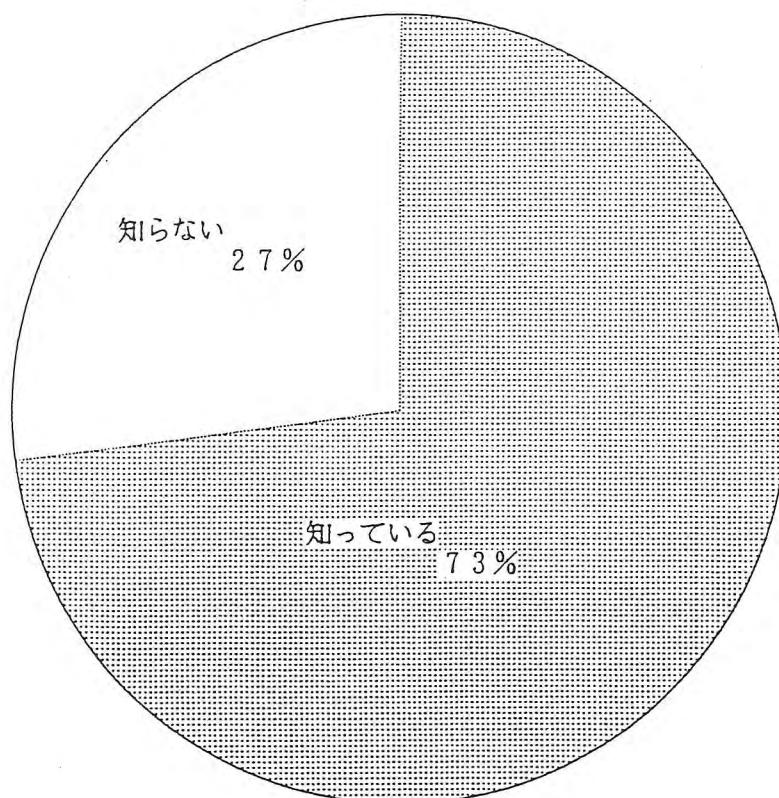


図-2 あなたは「森林に対して興味」がありますか

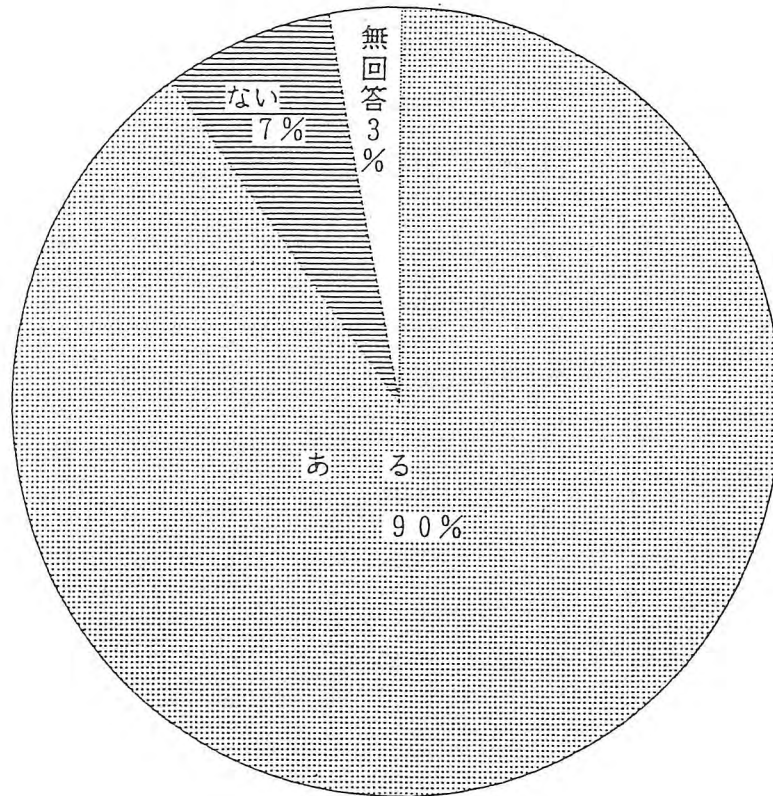


図-3 「どのようなところ」に興味がありますか

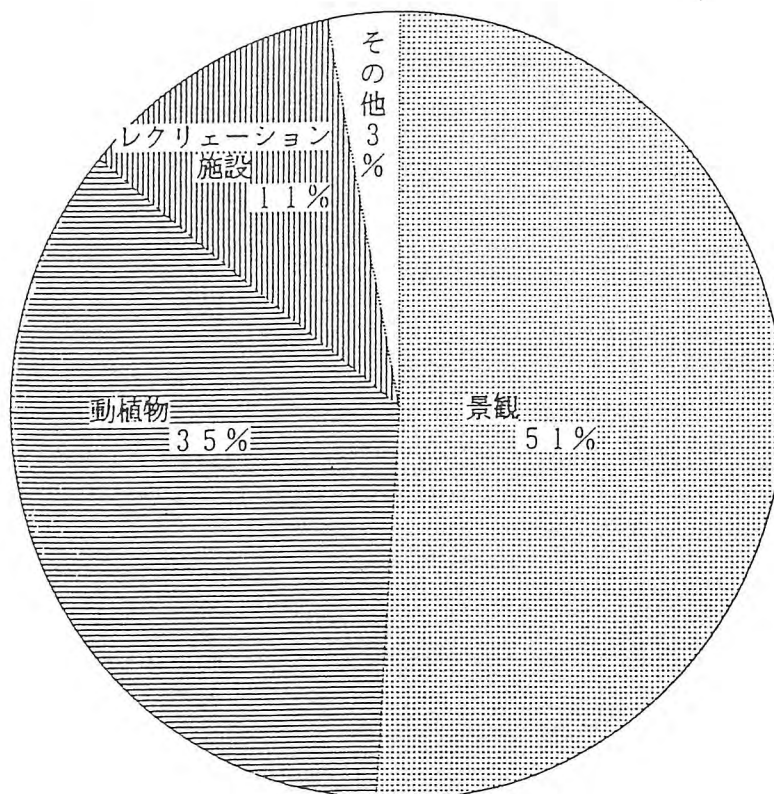


図-4 あなたは「自然保護」に興味がありますか

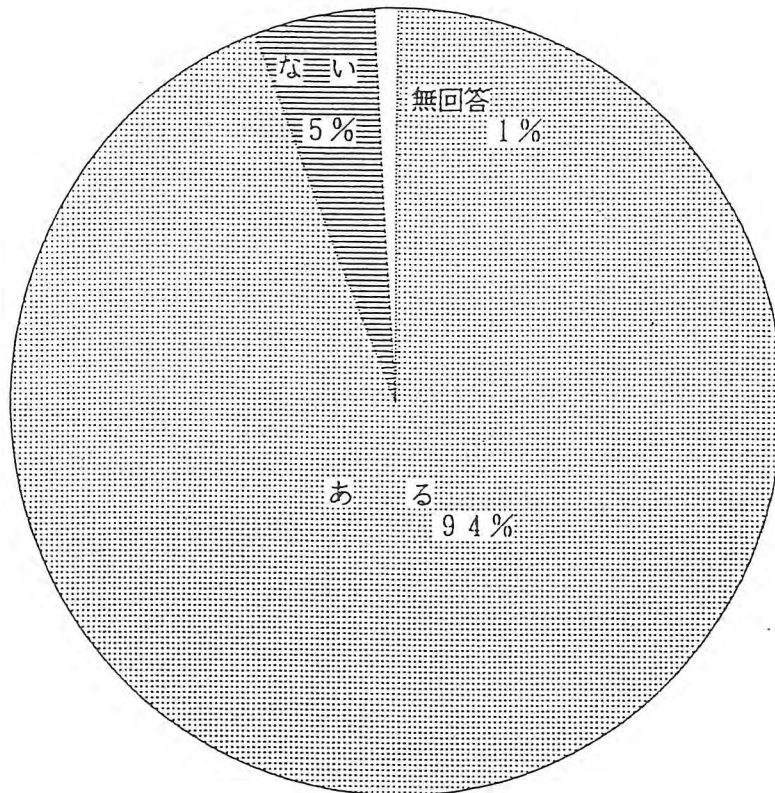


図-5 「どのようなこと」に興味を持っていますか

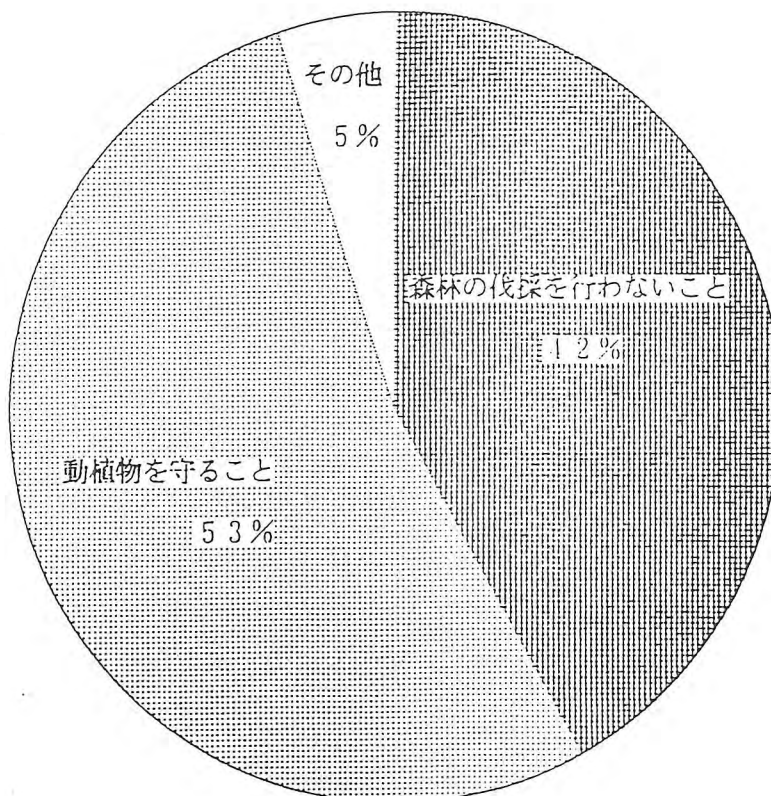


図-6 「仙台近郊の森林」をあなたならどうしますか

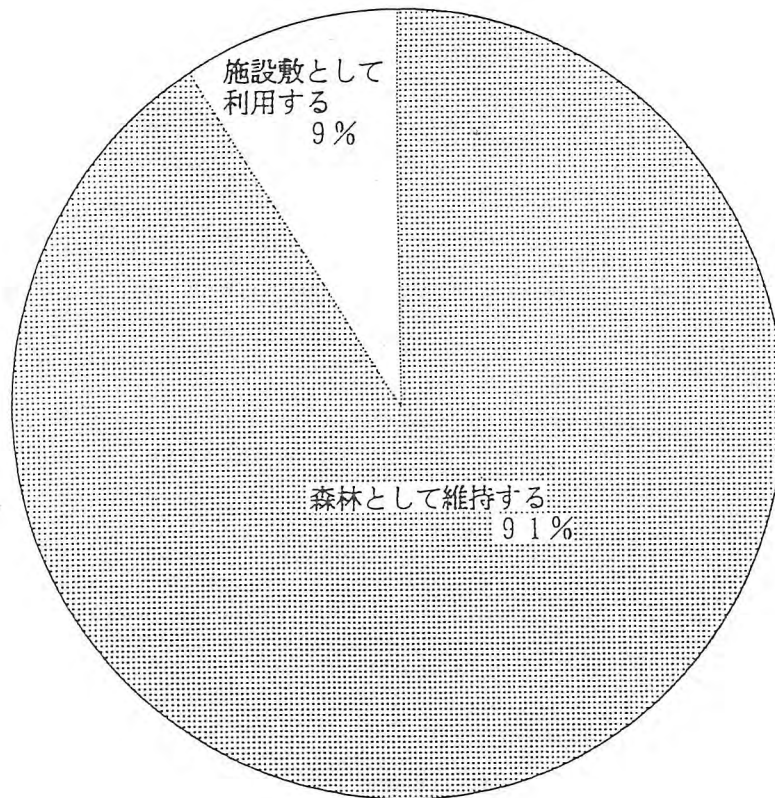


図-7 「森林の機能を高めるための経費負担」に協力しますか

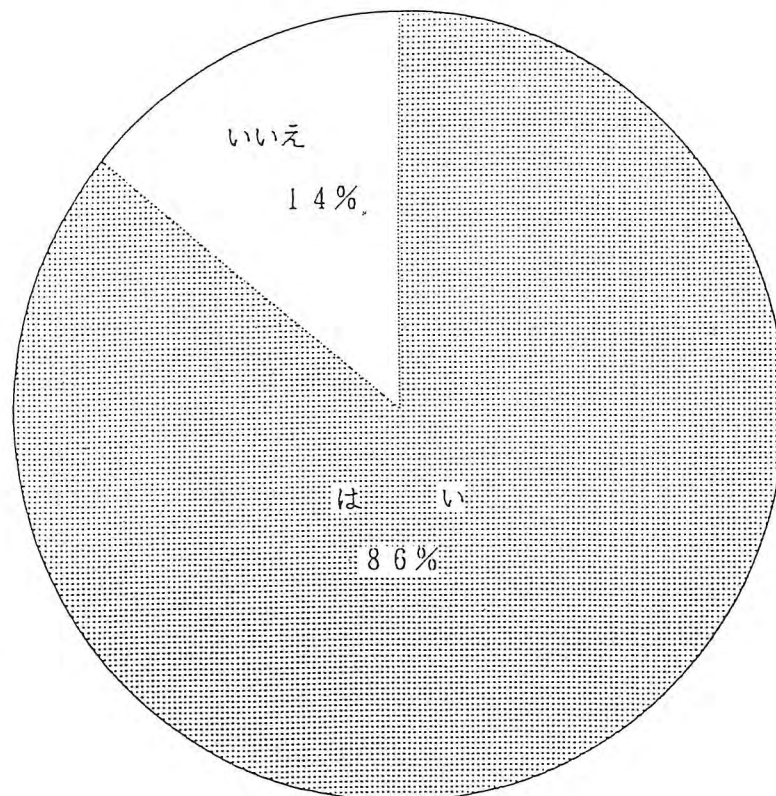


図-8 あなたは「森林の伐採」についてどう思いますか

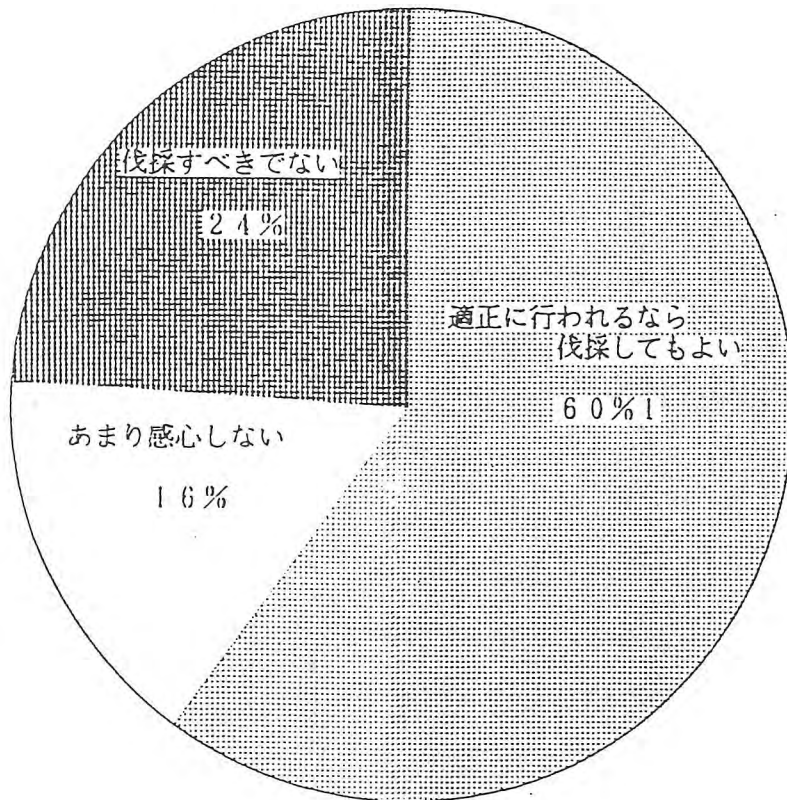


図-9 「森林以外の施設として利用する」場合に何が良いと思いますか

